

積極的な設備投資により
エネルギー構造の变革・需要増加に対応
— 安定的な高収益構造の確立に向かって —

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 永田昌久

2006年11月28日

ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営管理部

総務統括部長 渡邊久郎

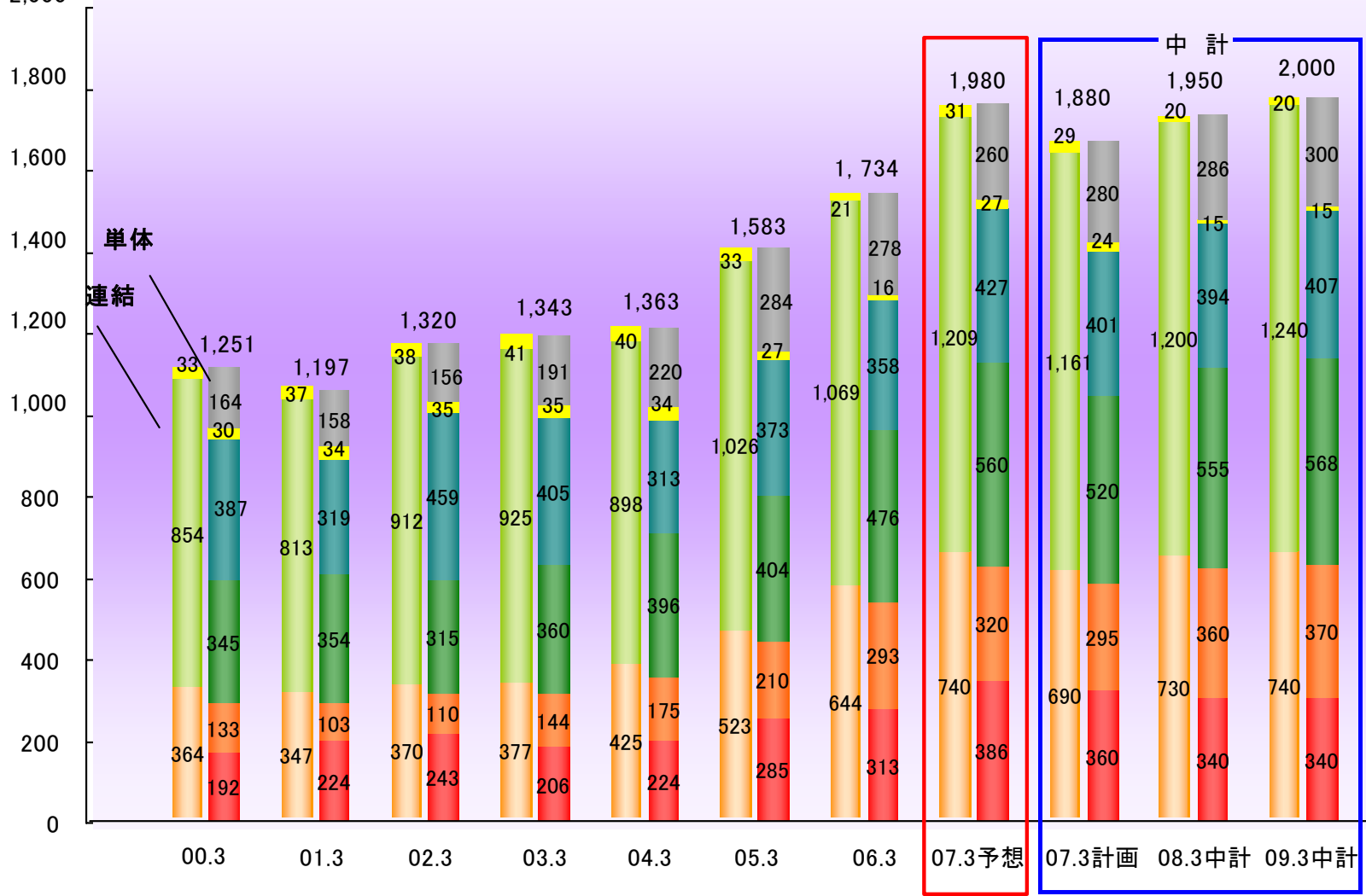
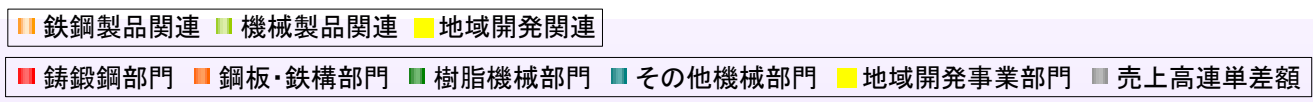
TEL: 042-330-8000 FAX: 042-330-8017

第1部 07. 3期中間決算及び通期予想

(1)00. 3期からの推移と中期経営計画(売上高)

— 中計の2年前倒し達成を見込む —

単位: 億円

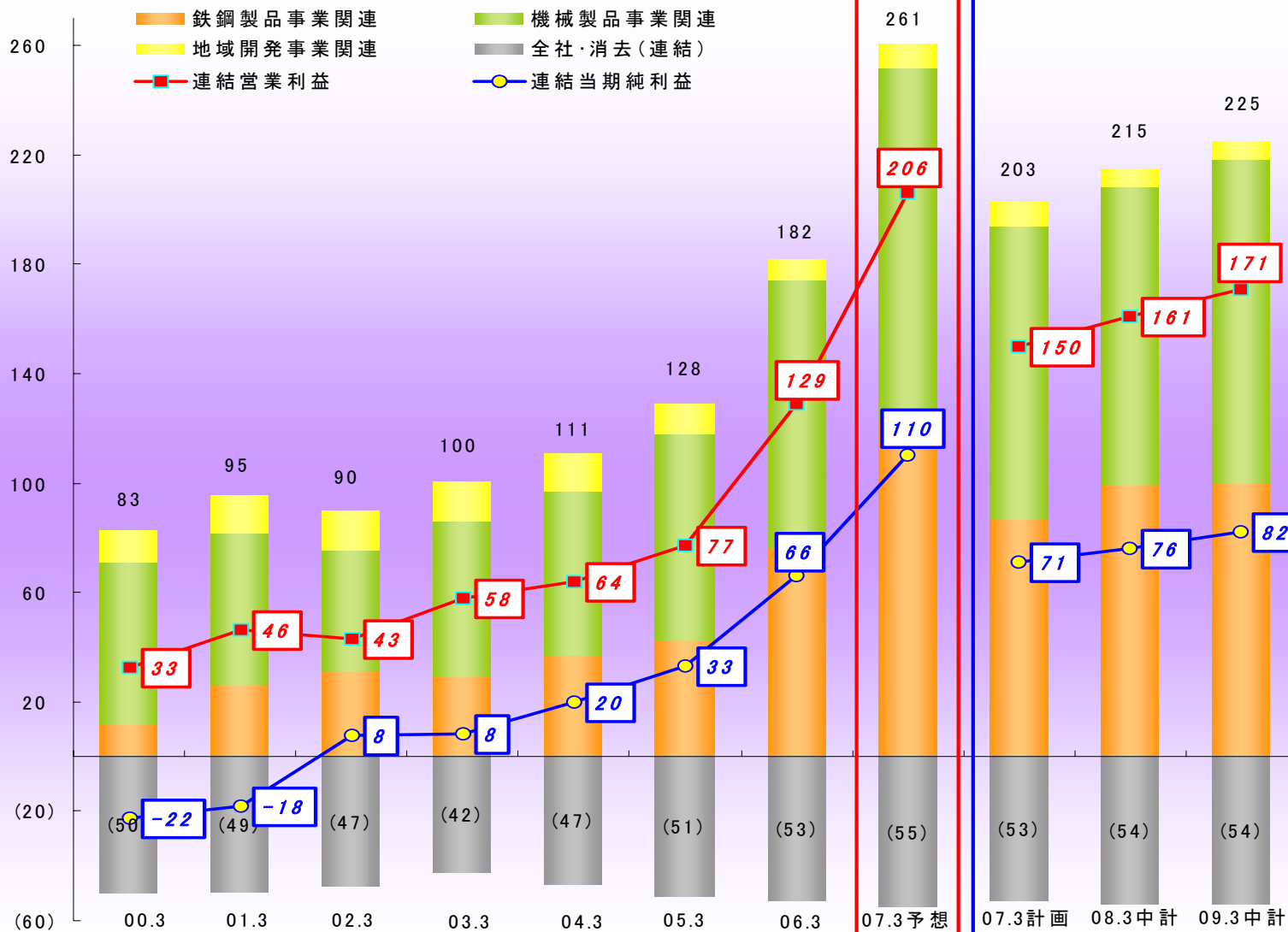


中計: 平成18年5月8日開示

(2)00. 3期からの推移と中期経営計画(営業利益・当期純利益)

—営業利益は200億円を超える見込み—

単位: 億円



(3)07. 3期中間決算及び通期予想

為替予約が進んでおり
今期の業績への為替の影響は僅少

1. 連結損益の状況

(単位: 億円)

	06.3 中間実績 (A)	07.3中間 当初計画	07.3中間 実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 実績 (C)	07.3通期 当初計画	07.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	782	910	985	126 %	1,734	1,880	1,980	114 %
連単倍率	1.21 倍	1.17 倍	1.16 倍	—	1.19 倍	1.18 倍	1.15 倍	— 倍
営業利益 (率)	43 5.5 %	67 7.4 %	101 10.3 %	236 % —	129 7.4 %	150 8.0 %	206 10.4 %	160 % —
経常利益	36	59	100	272 %	117	135	198	169 %
当期純利益	22	33	57	255 %	66	71	110	167 %
一株当たり 当期純利益	6.02 円	8.89 円	15.35 円	255 %	17.57 円	19.12 円	29.62 円	169 %

2. 単体損益の状況

(単位: 億円)

	06.3 中間実績 (A)	07.3中間 当初計画	07.3中間 実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 実績 (C)	07.3通期 当初計画	07.3通期 予想 (D)	前期比 (D)/(C)
売上高	646	780	847	131 %	1,456	1,600	1,720	118 %
営業利益 (率)	33 5.1 %	58 7.4 %	95 11.2 %	287 % —	107 7.3 %	130 8.1 %	190 11.0 %	178 % —
経常利益	32	55	98	303 %	102	120	188	184 %
当期純利益	21	32	59	275 %	60	64	107	178 %
一株当たり 当期純利益	5.86 円	8.62 円	16.13 円	275 %	16.07 円	17.24 円	28.82 円	179 %
一株当たり 配当金	0 円	0 円	0 円	0 円	5 円	5 円	6 円	120 %

当期純利益の伸長が見込まれるため、
年間配当額を従来計画5円から6円に増額修正

注) 当初計画は平成18年6月6日の前回決算説明会時を示す。

(4) 事業別連結売上高・営業利益の状況

分譲事業の売上により前期比
大幅増加

当初計画に比べ、増産効果・価格是正・コスト低減により原料・燃料の高騰を吸収し増益を見込む

(単位: 億円)

		06.3 中間実績 (A)	07.3 中間計画	07.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 通期実績 (C)	07.3 当初計画	07.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品	売上高	280	340	381	136%	644	690	740	115%
	営業利益	26	39	63	242%	76	87	123	162%
機械製品	売上高	491	550	582	119%	1,069	1,161	1,209	113%
	営業利益	38	47	59	155%	98	107	129	132%
地域開発	売上高	11	20	22	200%	21	29	31	148%
	営業利益	4	5	6	150%	7	9	9	129%
消去又は配分不能費用		△ 25	△ 24	△ 27	108%	△ 53	△ 53	△ 55	104%
合計	売上高	782	910	985	126%	1,734	1,880	1,980	114%
	営業利益	43	67	101	235%	129	150	206	161%

上期のレビュー

- 鉄鋼製品関連事業は、鑄鍛鋼品、鋼板の受注・売上が増加するとともに、クラッド鋼管の客先計画の前倒しに対応した早期売上を実施。原油、原材料高に見合う代価是正、増産等が寄与し計画比24億円増益。
- 機械製品関連事業は、樹脂製造機械及び自動車・薄型テレビ向けの射出成形機の売上が増加。調達費用の削減、増産効果等により計画比12億円増益。

下期のポイントと通期の見通し

- (下期のポイント) 圧力容器、クラッド鋼管、樹脂製造機械及びその他機械製品の売上は増加を予想。好調な受注・売上に支えられた増産効果、生産性向上等により、計画に比べ増収増益を予想。
- (通期の見通し) エネルギー関連部材、樹脂機械、その他機械製品全般にわたる好調な需要環境、設備投資による生産量拡大が進み当初計画比売上が増加。これによる増産効果、調達コストを反映した代価是正、製造コスト及び調達コストの削減効果等により、当初計画比56億円の増益を予想。

(5) 事業別連結受注高の状況

		06.3 通期実績 (A)	07.3 当初計画 (B)	07.3 通期予想 (C)	前期比 (%) (C)/(A)
鉄鋼製品	受注高	1,053	672	899	85%
機械製品	受注高	1,193	1,089	1,120	94%
地域開発	受注高	31	19	21	70%
合計		2,277	1,780	2,040	90%

(単位: 億円)

北米向け圧力容器、火力・原子力発電用部材、クラッド鋼板・鋼管が計画比増加

樹脂製造機械が計画比好調に推移

クウェート向け圧力容器、サウジアラビア向け造粒機等の大型案件により大幅伸長

大型案件は無いものの需要は引き続き堅調に推移

(6) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

客先計画の前倒しに対応し、大口鋼管案件の工期短縮による早期売上を見込む

(単位: 億円)

		06.3 中間実績 (A)	07.3 中間計画	07.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 通期実績 (C)	07.3 当初計画	07.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	149	188	210	141%	313	360	386	124%
	鋼板・鉄構部門	114	135	153	134%	293	295	320	109%
	(単体部門計)	263	323	363	138%	606	655	706	117%
	連結会社他	17	17	18	106%	28	35	34	121%
	連結売上高	280	340	381	136%	644	690	740	115%
(営業利益)		(26)	(39)	(63)	(242%)	(76)	(87)	(123)	(162%)

計画に比し短納期のクラッド鋼板の増加

受注の増加、生産性向上による増産効果により前期比47億円の増加

		06.3 中間実績 (A)	07.3 中間計画	07.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 通期実績 (C)	07.3 当初計画	07.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)	
機械製品関連	樹脂機械部門	205	252	259	126%	476	520	560	118%	
	その他機械部門	170	188	205	121%	358	401	427	119%	
	(単体部門計)	375	440	464	124%	834	921	987	118%	
	連結会社他	(IT関連)	38	35	38	100%	97	97	84	87%
		(その他)	78	75	80	103%	138	143	138	100%
	連結売上高	491	550	582	119%	1,069	1,161	1,209	113%	
(営業利益)		(38)	(47)	(59)	(155%)	(98)	(107)	(129)	(132%)	

(単位: 億円)

堅調な需要が続き売上伸長

環境関連機器の増加

樹脂機械の好調で前期比31億円の増加

(7) 連結セグメント別の業績(受注高)

原油価格高騰によるカナダ・オイルサンド用、米国更新需要の急増により石油精製用圧力容器が増加したほか、ケミカルタンカー、淡水化プラント用のクラッド鋼板が大幅に伸長し計画比148億円増加

中国向け火力用部材、米国・韓国向け原子力用部材の伸長が継続し計画比82億円増加

(単位: 億円)

		06.3 中間実績 (A)	07.3 中間計画	07.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 通期実績 (C)	07.3 当初計画	07.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連	鑄鍛鋼部門	204	192	274	134%	398	377	430	108%
	鋼板・鉄構部門	247	163	311	126%	617	260	435	71%
	(単体部門計)	452	355	585	129%	1,014	637	865	85%
	連結会社他	17	10	18	106%	39	35	34	87%
	連結受注高	469	365	603	129%	1,053	672	899	85%

造粒機・押出機が堅調に推移

前期は圧力容器類に大型案件あり
今期は前期比減少するも高水準

(単位: 億円)

		06.3 中間実績 (A)	07.3 中間計画	07.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	06.3 通期実績 (C)	07.3 当初計画	07.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
機械製品関連	樹脂機械部門	259	256	270	104%	577	495	520	90%
	その他機械部門	177	140	207	117%	385	374	398	103%
	(単体部門計)	436	396	477	109%	962	869	918	95%
	連結会社他	131	104	108	82%	231	220	202	87%
	連結受注高	567	500	585	103%	1,193	1,089	1,120	94%

風力開発事業に本格的に進出

樹脂機械に前期ほどの大型案件がなく若干減少を予想するも前期比ほぼ横這い

(8) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	06.3 中間実績 (A)	07.3 中間実績 (B)	対前年増減 (B)-(A)	07.3 通期予想
流動資産	1,221	1,426	205	1,387
固定資産	706	758	52	805
資産合計	1,927	2,184	257	2,192

(単位:億円)

	06.3 中間実績 (A)	07.3 中間実績 (B)	対前年増減 (B)-(A)	07.3 通期予想
流動負債	889	1,134	245	1,105
固定負債	433	370	△ 63	354
純資産	598	680	82	733
負債、純資産 合計	1,927	2,184	257	2,192

自己資本比率	31.0	31.0	0.0	33.4
1株当純資産	161.1	182.6	21.5	196.9

(単位:億円)

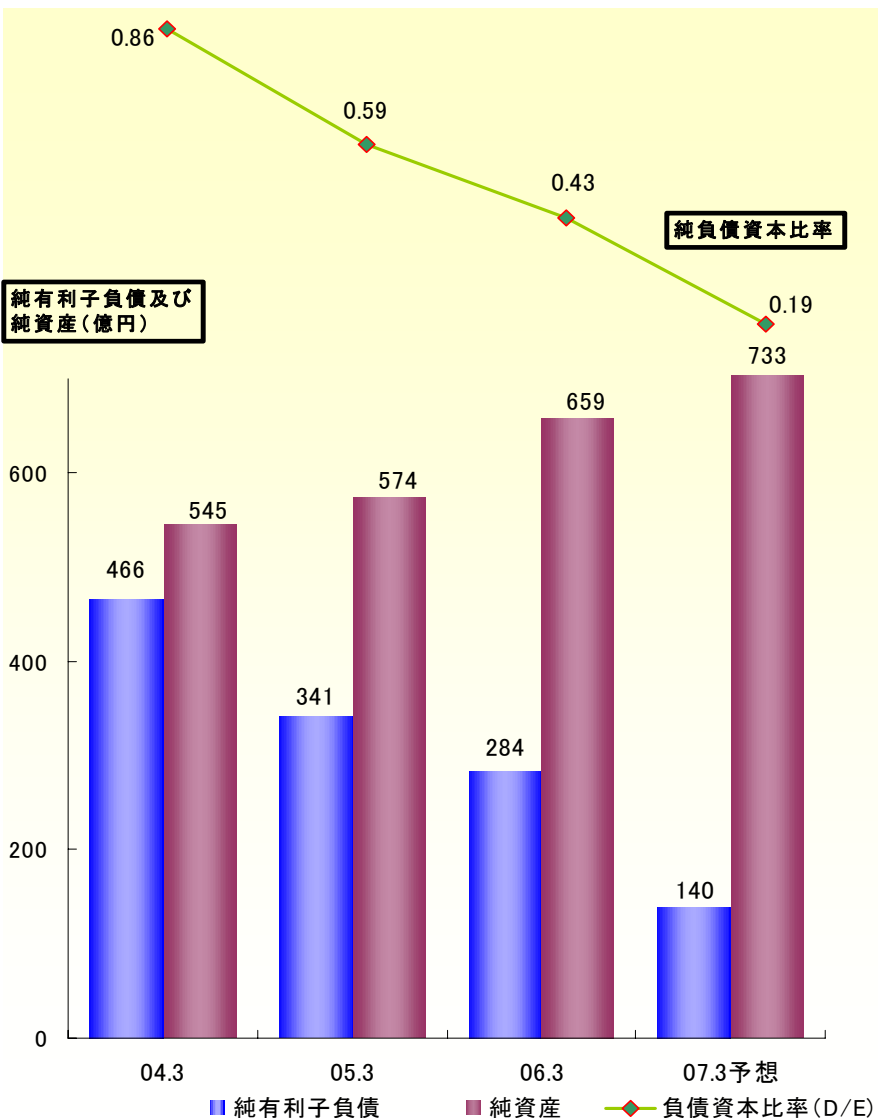
	06.3中間実績	07.3中間実績	06.3通期実績	07.3通期予想
営業活動 キャッシュフロー	50	157	61	183
圧縮資産売却 に係る納税額	△ 69	—	△ 69	—
投資活動 キャッシュフロー	△ 20	△ 20	△ 54	△ 78
計	△ 39	137	△ 62	105
財務活動 キャッシュフロー	△ 13	△ 75	△ 34	△ 128
現金及び現金同等物の 期末残高	188	243	145	220

(9) 財務体質の状況(純有利子負債・ROAの推移)(連結)

○07.3期末の予想有利子負債残高は前期末比109億円減少し360億円を計画

○07.3期の予想純負債資本比率(D/E)は0.19倍となり大幅に改善の見込み

○ROAは中計目標の8%以上を大きく上回る予定



期末	04.3	05.3	06.3実績	07.3中間	07.3予想
債務償還年数(年) (有利子負債/営業CF)	7.5	7.0	8.0	—	2.0
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍) (営業CF/利払い)	7.3	6.9	7.1	—	22.4
有利子負債EBITDA倍率(倍) (有利子負債/EBITDA)	5.6	4.4	2.8	—	1.4

(単位: 億円)

有利子負債(A)	621	510	469	412	360
現預金残高(B)	155	69 169	185	243	220
純有利子負債 (A)-(B)	466	341	284	169	140

(単位: %)

使用総資本経常利益率(ROA)	2.6	3.4	6.2	9.6	9.6
-----------------	-----	-----	-----	-----	-----

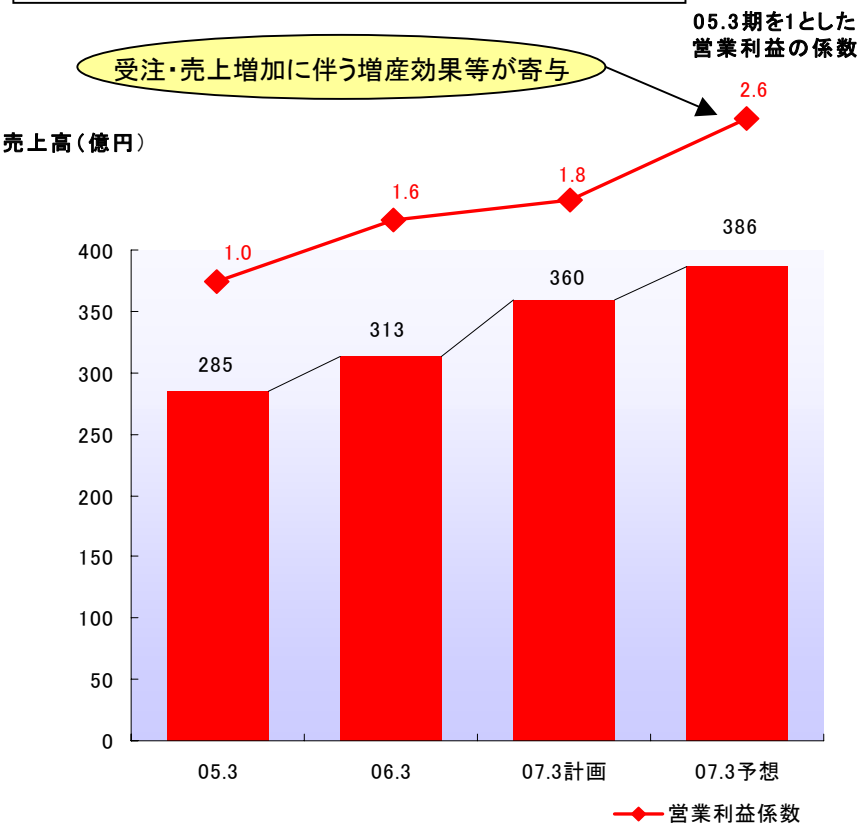
第2部 各事業部門の業況・見通し

(1) 鑄鍛鋼部門：火力・原子力発電用部材の需要は旺盛

中計での取り組み

- ①火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ②需要環境に合わせた生産能力向上・効率化のための設備投資継続実施

鑄鍛鋼部門(単体)の売上高・営業利益推移



07.3下期状況

- 中国向けを中心に火力発電用部材の売上が増加の見通し
- 原子力発電用部材は中国の新設案件継続、米国の取替・新設案件の引き合い活発化、日本、韓国での新設動向を注視
- 鉄鋼圧延用ロールは大型品を中心に受注・売上とも堅調に推移

超大型厚板用ロールは4年先納期分まで確保

- 電子材料用素材は液晶テレビ等の増加により今後減少傾向であるものの、07.3期は06.3期減少の反動により増加を予想
- 売上の増加、増産効果及び調達コストを反映した代価是正等により、07.3期の営業利益は07.3期計画比50%以上増加の見込み

08.3期予想

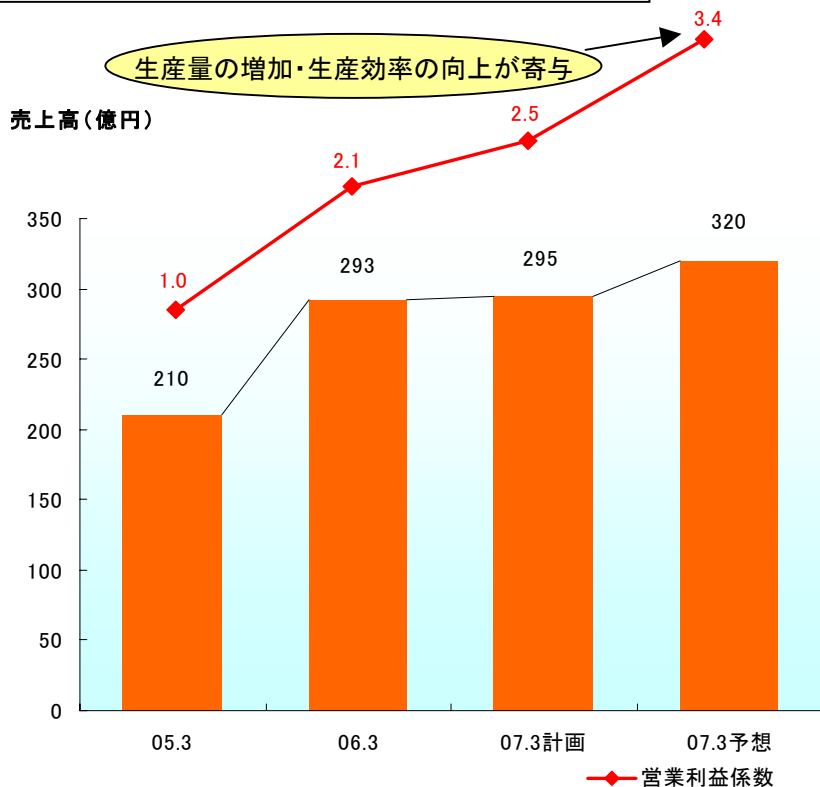
- 中国向け火力発電用部材及び原子力発電用部材は引き続き堅調に推移(米国、国内、韓国新設案件)
- 鉄鋼圧延用ロールは国内・アジアを中心に大型品の需要が継続
- 原材料・原油価格の高止まりが継続するも、増産・効率化の設備投資及び代価是正効果により**売上高・利益とも07.3期比増加を目指す**

(2) 鋼板・鉄構部門: エネルギー構造の变革・需要増加を背景に利益が大幅伸長

中計での取り組み

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力向上・効率化の推進

鋼板・鉄構部門(単体)の売上高・営業利益推移 05.3期を1とした営業利益の係数



07.3下期状況

圧力容器

- 原油需要の拡大・価格高騰の継続に伴う中東での製油所新設による大型案件の継続受注に注力
- カナダのオイルサンド向け需要の一層の取り込み
- 米国での新設案件の継続受注を目指す

クラッド鋼板・鋼管

- 中東での淡水化プラント用、石化プラント用クラッド鋼板の需要は高水準で推移
 - 耐腐食性が要求される天然ガス田向け鋼管の需要は引き続き好調に推移
- クラッド鋼板・鋼管の増産・効率化の設備投資効果、受注・売上の増加に伴う増産効果、調達コストを反映した代価是正等により、07.3期の営業利益は07.3期計画比25%以上増加の見込み

05.3期からの設備投資が07.3期以降貢献

08.3期予想

脱硫用圧力容器の北米・中東での需要継続、06.3期受注のクウェート向け大型案件の売上予定
 東南アジアを中心とする鋼管需要の継続、中東向け淡水化プラント用及び石化プラント向け鋼板の需要は堅調を予想、クラッド鋼板・鋼管の受注拡大に向けた設備投資継続により、07.3期比増収増益を目指す

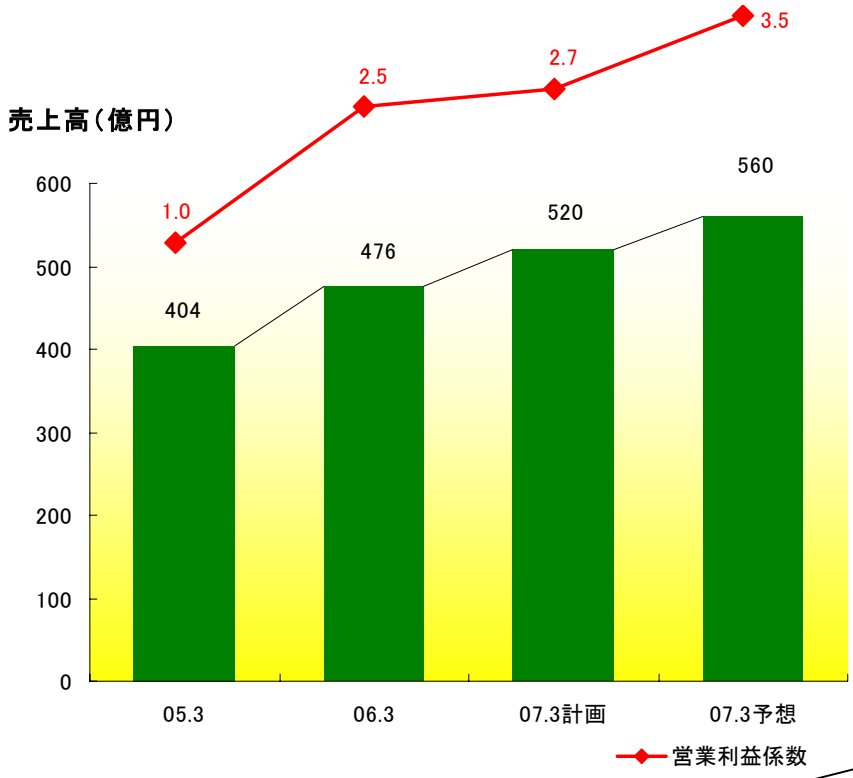
(3) 樹脂機械部門: M&Aによる事業規模拡大、堅調な需要環境を背景に更なる利益向上を目指す

中計での取り組み

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 情報・通信分野(光学液晶フィルム)の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略

樹脂機械部門(単体)の売上高・営業利益推移

05.3期を1とした
営業利益の係数



液晶テレビ用フィルム等のIT関連材

07.3下期状況

成形機

- 国内自動車分野及び薄型テレビ用に大型射出成形機の需要は堅調を予想
- 自動車・二輪車向けプラスチックガソリンタンク用大型中空成形機は堅調に推移

樹脂製造・加工機械

- 造粒機・押出機は中東・中国向けを中心に好調な需要環境が継続
- 売上の増加、調達品価格高騰を織り込んだ代価への反映、増産及びコスト削減効果により、07.3期の営業利益は07.3期計画比25%以上増加の見込み

08.3期予想

大型射出成形機の堅調な受注は継続、中空成形機はタハラの子会社化及び大型中空成形機の生産注力による売上高・利益率の向上、中東・中国を中心に樹脂製造機械の市場環境は堅調、樹脂加工機械は三菱重工業からの事業買収に伴い高付加価値製品の需要取り込みと製品技術の確立に注力することにより、07.3期比増収増益を目指す

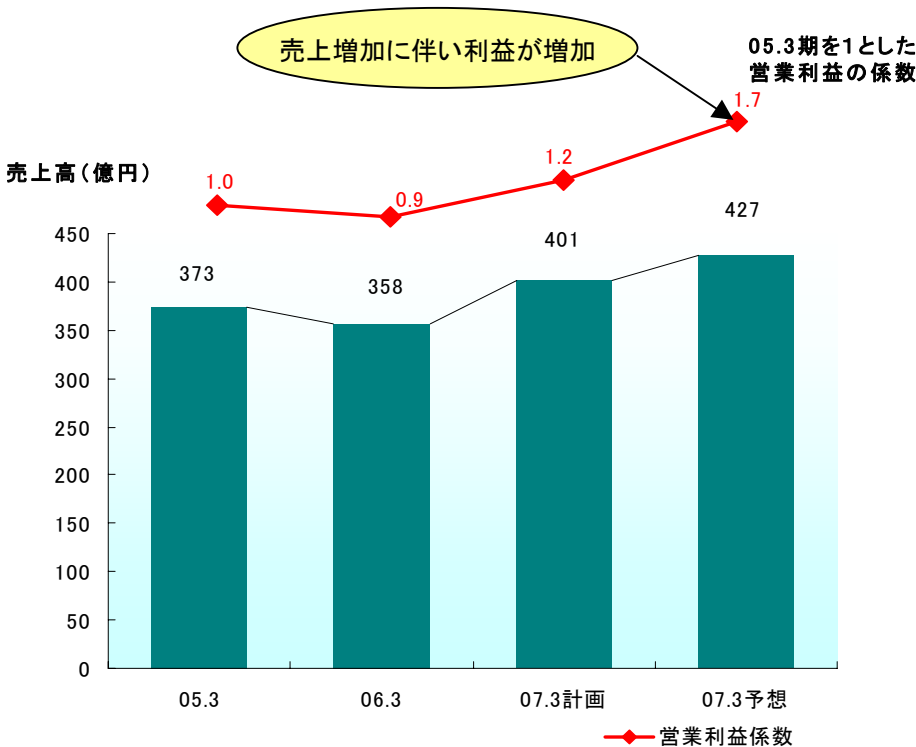
(4) その他機械部門: 技術経営の推進により

新規事業分野の伸長

中計での取り組み

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大

その他機械部門(単体)の売上高・営業利益推移



07.3下期状況

IT関連機器

(レーザアニール装置)

- 中・小型ディスプレイ(携帯電話・デジタルカメラ)における高精細化の投資が活発で、過去最高の受注及び利益を目指す

(マグネシウム合金射出成形機)

- 新機種による新規顧客の開拓に注力
- 大手携帯電話メーカーによる中国・韓国でのマグネシウム部品採用の拡大により売上・利益の増加

新規事業

- 風力発電機のラインナップ拡充、発電機用ブレードの内製化等により、事業の拡大、コスト競争力の強化を図る
- マグネシウム合金射出成形機、レーザアニール装置及び環境関連機器等の増加により、07.3期の営業利益は07.3期計画比45%以上増加の見込み

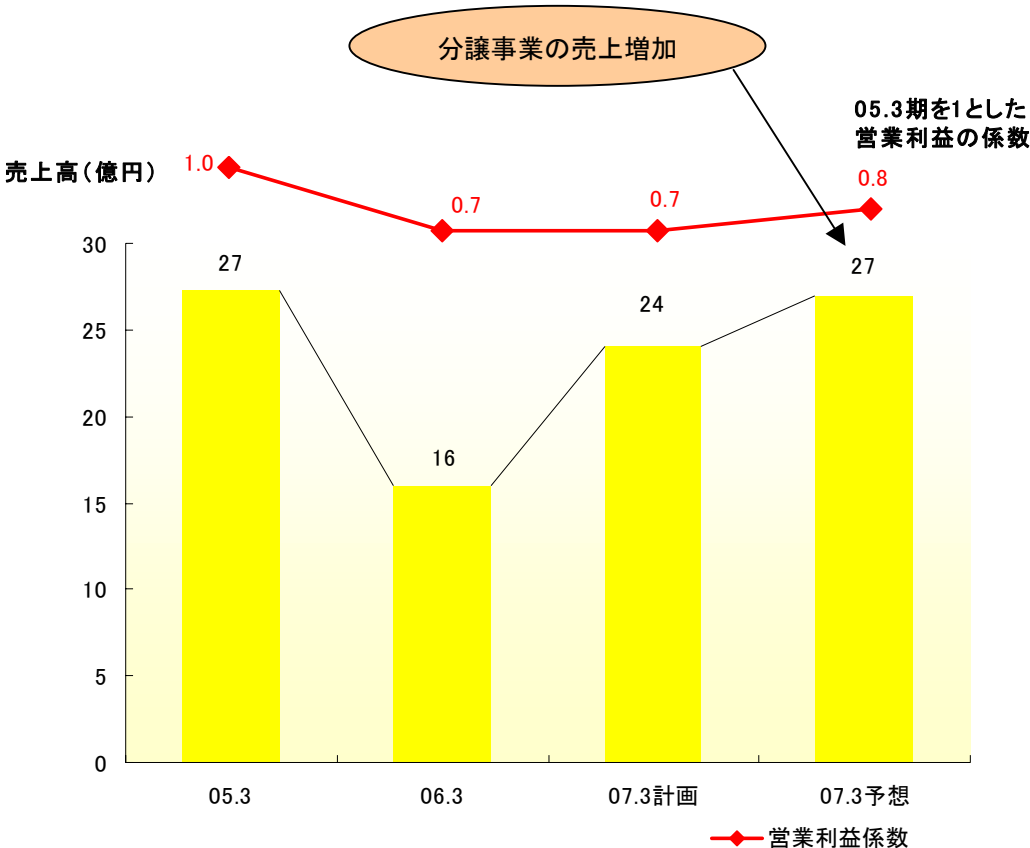
08.3期予想

- 防衛関連機器は新防衛大綱の影響から減少を予想、レーザアニール装置は新製品の投入、マグネシウム合金射出成形は中国・韓国での携帯電話需要の継続、風力発電機器の業容拡大を図り、07.3期以上の売上・利益を目指す

(5) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用推進

○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化

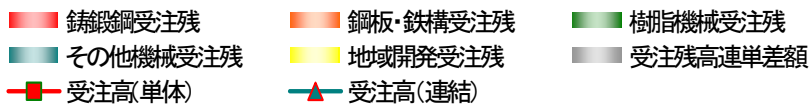
- ①安定的収益の確保
- ②キャッシュフローの創出



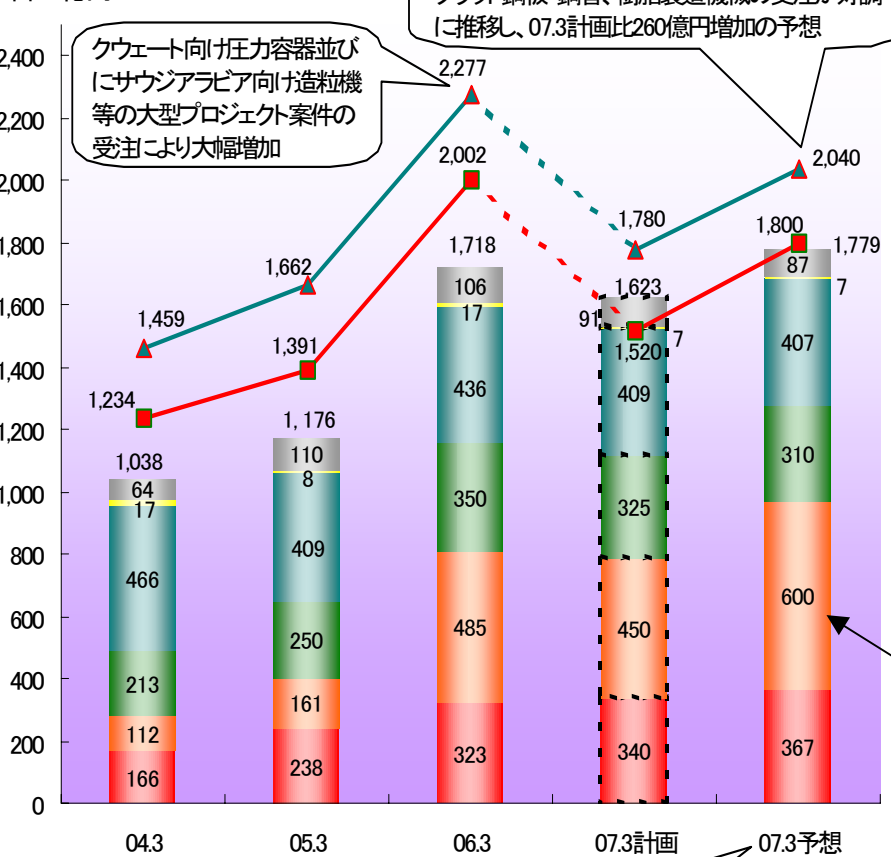
商業施設(北海道・室蘭弥生ショッピングセンター)

第3部 中期経営計画の見直し

(1) 07. 3期の受注高・受注残高と08. 3期の傾向



単位: 億円



北米向け圧力容器、火力・原子力発電用部材、クラッド鋼板・鋼管、樹脂製造機械の受注が好調に推移し、07.3計画比260億円増加の予想

クウェート向け圧力容器並びにサウジアラビア向け造粒機等の大型プロジェクト案件の受注により大幅増加

09.3期以降売上の割合が増加

07.3下期予想

- 鋳鍛鋼部門

上期に受注が大幅に増加、下期においても中国向けを中心とする火力発電用部材、原子力発電用部材の需要は堅調に推移
- 鋼板・鉄構部門

圧力容器及びクラッド鋼板・鋼管の需要環境は好調に推移、受注高は07.3下期計画比30億円程度増加を見込む
- 樹脂機械部門

樹脂製造機械は中国、中東を中心に需要増加が継続
射出成形機は国内自動車分野及び薄型テレビ向けに中・大型機は堅調を維持
→受注高は07.3下期計画比10億円以上増加を見込む
- その他機械部門

レーザーニール装置は韓国・国内のサービス子会社立ち上げによる体質強化と利益の確保
マグネシウム合金射出成形機は中国・韓国での携帯電話のマグネシウム化進展を見込む
→06.3期に比べ大型案件の減少はあるものの、エネルギー関連部材、樹脂製造機械を中心に受注環境は好調に推移

受注残高は圧力容器及びクラッド鋼管の増加により、07.3期計画比150億円増加

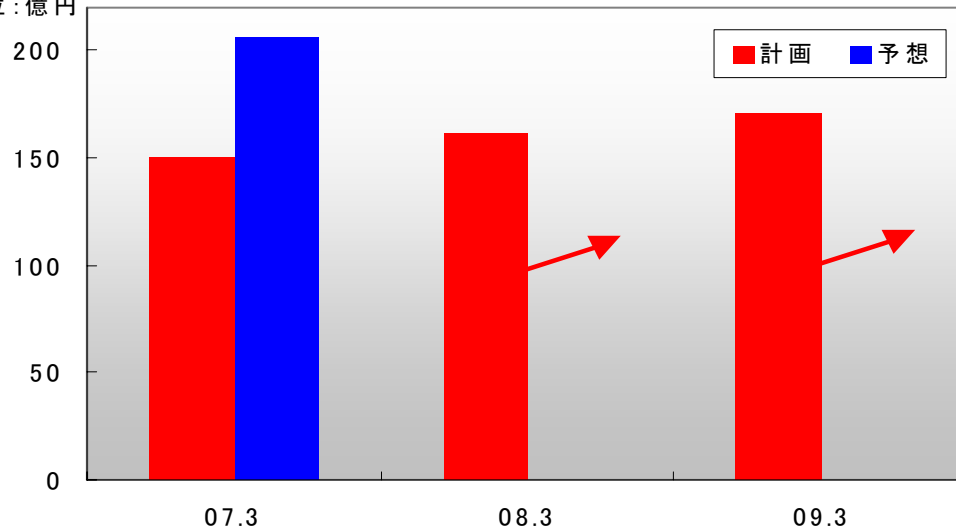
08.3期予想

エネルギー関連部材、樹脂製造機械の需要環境は堅調に推移する見込み
→増産対応の設備投資を背景に07.3期比増加を目指す

(2) 中期経営計画(J2008)の状況と見直し

中計営業利益(連結)

単位: 億円



J2008の重点項目

- ①収益力の向上
- ②資産効率の向上 (ROA8%以上)
- ③CSR活動の推進

(中計の見通し)

07.3期に09.3期の利益計画値を大幅達成の見込み

(中計達成の要因)

- ① 鋳鍛鋼品、クラッド鋼板・鋼管等のエネルギー関連部材、樹脂製造機械の売上・利益の増加
- ② 05.3期以来の原材料・部品・原油価格の上昇に見合った製品代価是正の浸透、調達コスト・効率化によるコスト削減効果



中計(J2008)の08.3期及び09.3期のローリングを行い、更なる業績向上、企業価値の向上に取り組む

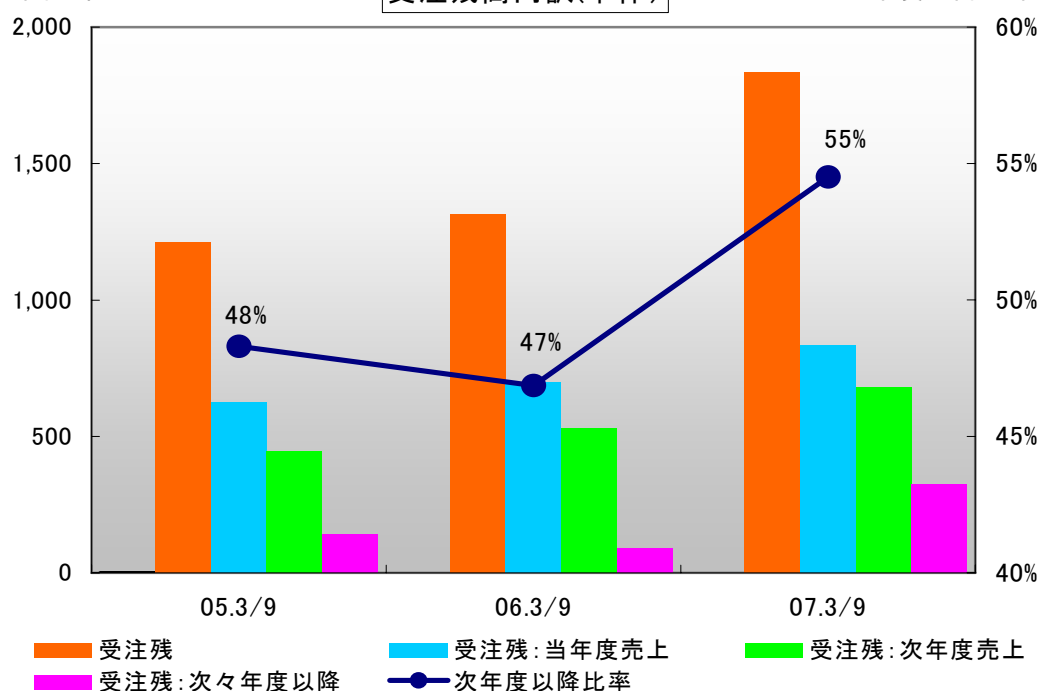
→07.3下期に中計のローリングに着手

07.3期決算説明会までにローリング後の中計概要説明を計画

単位: 億円

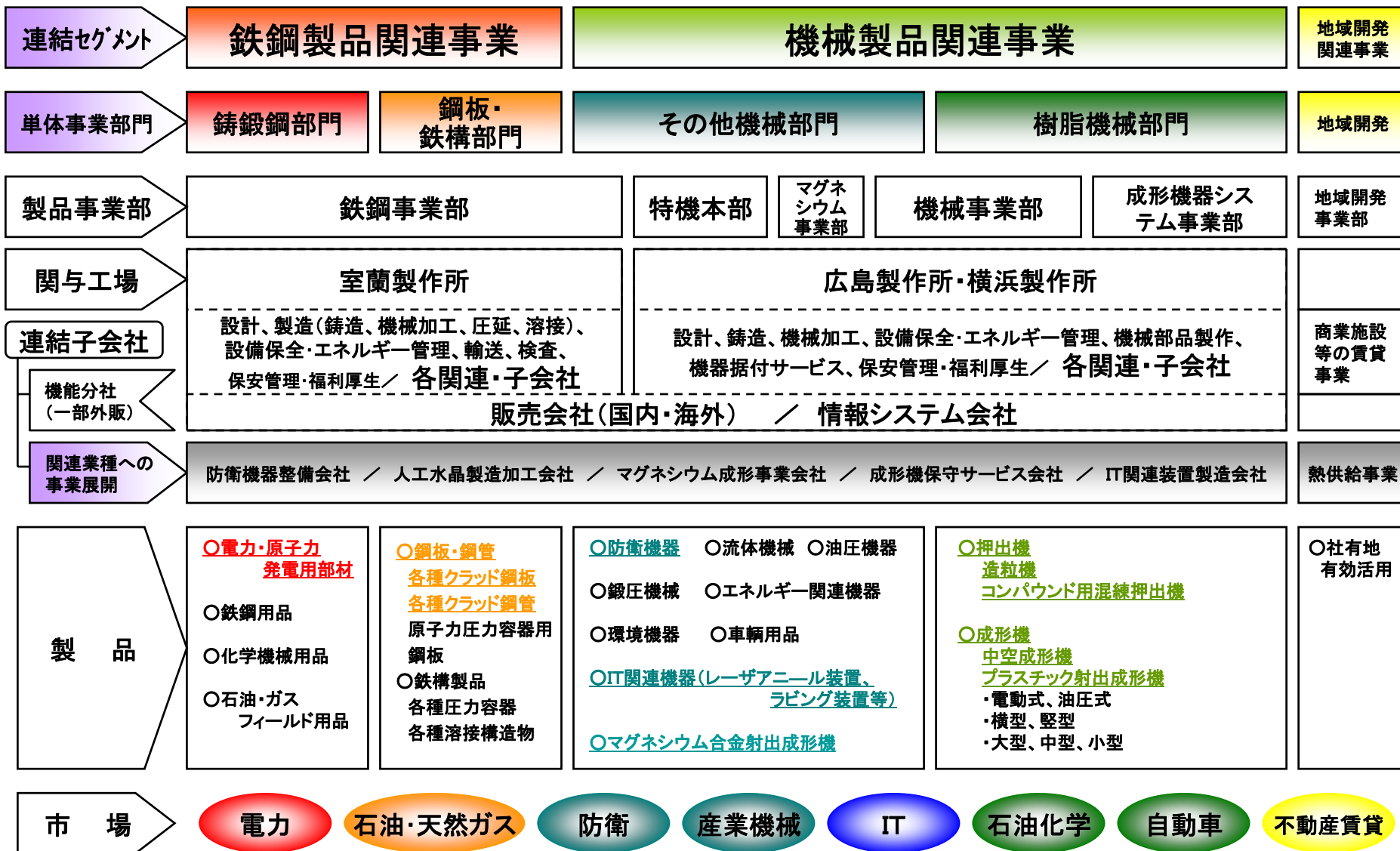
受注残高内訳(単体)

次年度以降比率



説明会補足資料

事業部門の構成と当社製品群



当社の沿革

1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。

1920年
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。

1938年
1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所および本店その他の営業所を継承して新発足。

1983年 横浜製作所を移転。
デミング賞実施賞受ける。

1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。

1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工

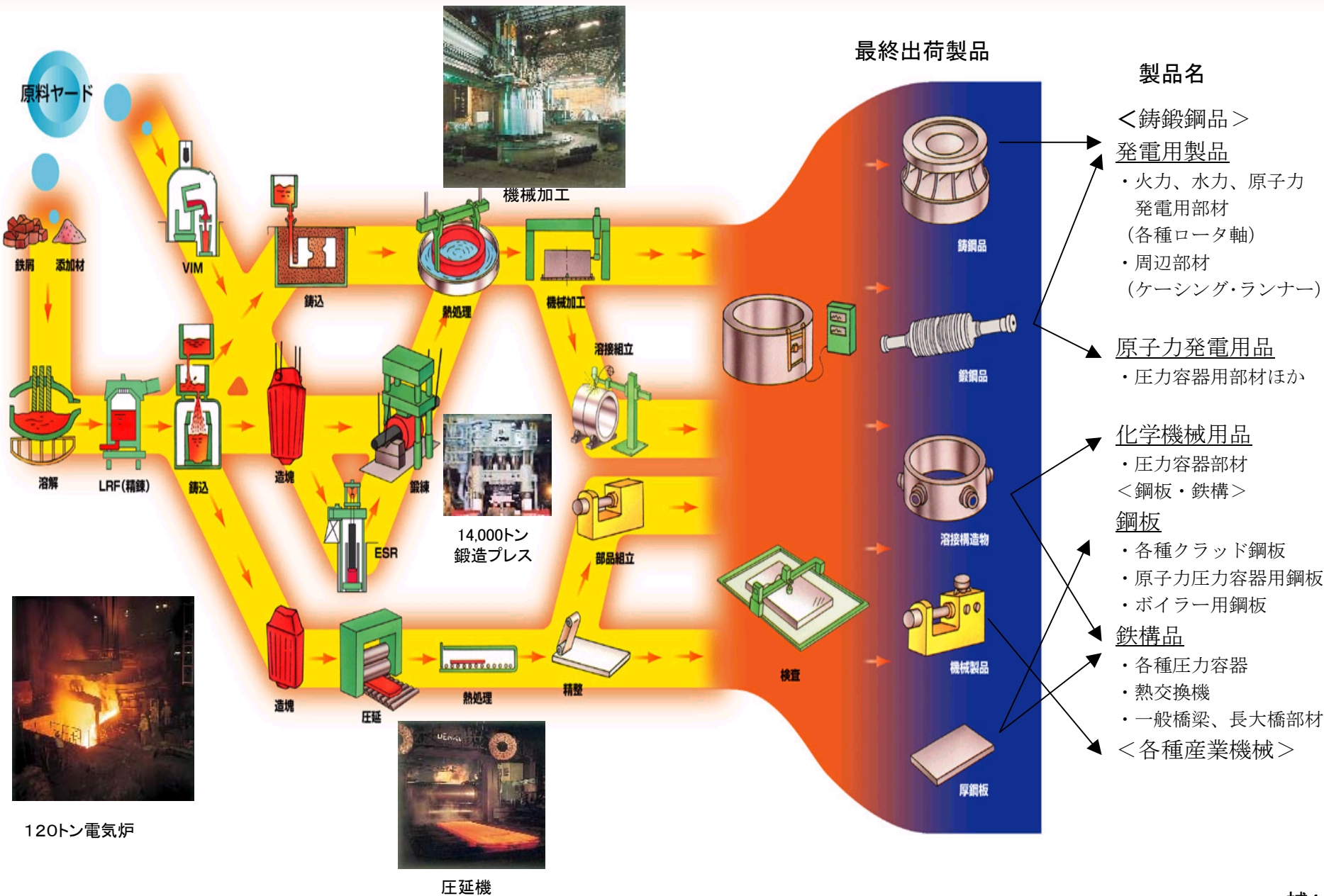
1994年 ISO9001・9002の認証を取得。

1998年 ISO14001の認証を取得。

2003年 室蘭製作所にて
14,000トン鍛造プレス竣工。



鑄鍛鋼製品 鋼板・鉄構製品の製造工程 鋼づくりを原点とする製品群



樹脂機械 樹脂製造機械から加工機械までのフルラインナップで市場拡大

樹脂機械(プラスチック関連技術・装置の流れ)



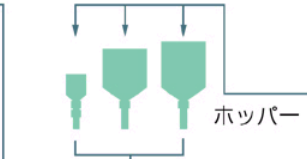
ポリマー重合リアクター
(石油化学プラント)

連続ミキサー
造粒システム

超大型造粒装置



処理量: 20-40万トン(年)
モータ: 5,000-12,000KW



ペレット

二軸混練押出機(TEX)

コンパウンド
ペレット

超大型化

コンパウンド用押出機
「TEXシリーズ」



高機能化

食品加工機



食品用押出機



押出成形機



中空成形機



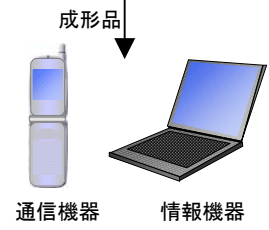
射出成形機



マグネシウム
射出成形機



新シリーズマグネシウム合金
射出成形機(280トン)



廃プラスチック減容・脱塩素処理設備・システム(リサイクル処理、固形燃料処理)

連結財務諸表の概要

(単位: 百万円)

	03.3	04.3	05.3	06.3	07.3中間	07.3予想
経営成績						
売上高	134,268	136,309	158,274	173,353	98,550	198,000
営業利益	5,813	6,394	7,721	12,876	10,133	20,600
経常利益	3,000	4,558	6,210	11,770	10,001	19,800
当期純利益	831	2,000	3,284	6,586	5,700	11,000
一株当たり当期純利益	2.23	5.39	8.70	17.57	15.35	29.62
自己資本当期純利益率	1.6	3.7	5.9	10.7	8.4	15.0
売上高経常利益率	2.2	3.3	3.9	6.8	10.1	10.0
財政状態						
自己資本	50,880	54,540	57,461	65,853	67,811	73,110
自己資本比率	29.3	30.3	31.1	33.5	31.0	33.4
一株当純資産	137.00	146.86	154.59	177.19	182.64	196.91
営業活動によるキャッシュフロー	9,928	8,232	7,291	5,854	15,691	18,300
投資活動によるキャッシュフロー	△1,888	△2,791	13,611	△6,534	△2,016	△7,800
財務活動によるキャッシュフロー	△5,283	△5,959	△11,918	△5,307	△7,547	△12,800
現金及び現金同等物期末残高	15,613	15,142	24,111	18,179	24,301	22,000